

国立精神・神経センター国府台病院の移譲先評価会議
における応募団体の評価について

国立精神・神経センター国府台病院の移譲先選定において過去4回に渡る評価会議を行い、その結果を次のとおり報告いたします。

本評価会議において、国立精神・神経センター国府台病院の移譲に当たり、応募団体を評価した結果、応募資格、移譲の条件のすべてを満たし、同病院の円滑な移譲及び地域医療の維持・向上を図るにもっとも相応しいと考えられる応募団体は、[] であるとの評価で一致いたしました。

評価に当たっては、まず「公益性・地域医療への貢献」、「医療機能面から見た評価」及び「病院運営・経営の視点」の3つの視点から各要素別に、応募団体の過去の実績、現況、将来の計画を評価した。方法として点数化を用い各評価員が評価したものを合計する方法で行った。その結果、[] が総合的に最高点を取得した。つぎに評価会議において、この結果をもとに、点数化になじまない要素や、将来計画での実現の妥当性など、不確定な要素を含め、さらに総合的に慎重な討議を加えた。

議論の結果、[] は、将来計画が地域の要望に沿い、地域開放型病床の設置、地域医療に係る研究・啓発活動に力を入れたものとなっており、地域医療への積極的な参画姿勢がある。医療機能面に関して、地域医療に密着した一般救急、小児救急の実績を有し計画の実現可能性が高く、移譲条件を満たしている。また院内学級の設置、在宅医療への専門医の配置、包括型地域生活支援プログラム（ACT）の継続等特記すべき意欲的な点が評価された。また、懸念される人材確保の面でも、法人の特性を生かしたネットワークの利用により実現の可能性がある。さらに、経営面でも安定した経営が期待できる。結論として、各応募団体の過去の実績、現況を踏まえ、提案された計画を検証し、今回応募のあった4団体の比較の中で、全体的にバランスの良い優れた内容で実現可能性があるかと判断した。

なお、他の応募団体について述べる。まず [] においては、病院組織のネットワークを利用した実現性の高い人員確保方策、十分な危機管理体制が評価できる。また [] では、地域開放型病床の設置、不採算部門である院内学級の採用の意欲的な点と、精神科医療全般における確かな実績と具体的なアプローチのある計画が評価された。さらに、[] においては、救急医療へのクリニカルパスの導入、組織的な救急教育システムの構築等の積極的な計画、先進的な神経難病の在宅医療へのアプローチ、経営面における優良性、実現性のある計画が評価でき、優れた計画性が見受けられた。

今後、厚生労働省にあつては、国立精神・神経センター国府台病院の移譲先の決定にあたって、本評価会議の4応募団体の評価結果についての意見をご考慮いただき、更なる国府台病院及び地域医療の発展に最善の選択を成されるよう期待するものである。

厚生労働省医政局長 殿

平成18年5月29日

国立精神・神経センター国府台病院の移譲先評価会議

座長

一瀬 邦弘